(1)第48号 平成 29年 5月 26日



社会福祉法人 告備路の会 吉備路学園

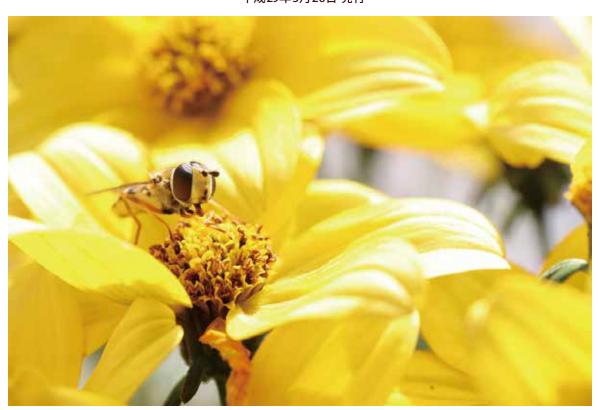
〒719-1155 岡山県総社市小寺1553番1 TEL(0866)92-6580 http://kibijigakuen.ecgo.jp

社会福祉法人 吉備路の会



第48号

平成29年5月26日 発行



「beedance (花名) にbeeが来た」

たちは考えつづけていかなければならないと思いまのか。」という利用者の立場での思い (生きがい)を私送れるのか、そして「私たちはどう生きていけばいいられらに見出し、どうすれば生き生きとした人生が生きているはりあい、という意味があります。生きが生きがい。とは、生きている意義、生きている実感、 ないでしょうか。
の社会の中で、今日という日を、生きております。の社会の中で、今日という日を、生きております。
私たちは、何かとあわただしく移り過ぎて行くこ けがえのない唯一無二の尊い命を頂いている、とい」という言葉があります。私たちは、天にも地にも、指して、発せられたといわれる「天上天下(唯我独お釈迦様が誕生された時、すぐに七歩進み、天と地

うです。 2つている素晴らしい命の尊さを示せれているのンリーワン、なのです。お釈迦様は、私たちの誰も人一人が頂いた尊いものであり、それぞれの命が

ません。 を合わせ、生かされている事に感謝

のないこの命に、きっと生きがいを見出せるして生まれさせて頂いた、有り難く、そして、はなりません。

「生きがいをもって





### 支援員 高原 まさ美

援・足浴などを行い、ゆったりと過別支援として、個別入浴・歯磨き支すが、できる作業を行っています。個した。利用者それぞれ興味は違いま ふれあいルームで利用者が好きな音実習などの活動を行いました。特に 用者が好みそうな作業を行ってきま ごして頂けるよう行ってきま サンプル剥がし・ボー 楽を流しながら塗り絵・シー き支援・個別入浴・ドライブ・調理 どの個別支援を行い、 平成二八年度は利用者十一名で、 日課は午前中、散歩・軽作業な ムで利用者が好きな音 ープをスタ 午後から歯磨 ル投げなど利 -ル貼り・

がら必要に応じて対応していきたい排泄確認・表情などを様子観察しな せるよう日々のバイタルチェック と思います。 今後も利用者の安心・安全に過ご

## 年間を振り返って なのはなグループ

# 支援員 延吉 彦志

した上で、生活に意欲をもち、役割対象に行ってきました。年齢を考慮 夕、折り紙、季節の飾り作り、ラジ 意識のもと、 ように洗濯物畳み、創作活動、カル 今年度は、 いきいきと取り組める 十名の高齢の利用者を ハビリ等を行っ

\*

てきました。

一面を見る事が出来ました。 置き、企画を実施してきました。買買い物、グループ外出を特に重点に い物やグループ外出では、学園内で 特に、利用者のニーズに応じた、

日々が送れるように支援していきた いと思います。 今後も皆さんが健康で笑顔溢れる 健康に過ごす事が出来ております。 いらっしゃいましたが、現在では、

た。

### ローズグループ 一年間を振り返って 支援員

カー等、体を動かす時間も作りまし体操やエアロバイク、野球やサッし、機能訓練も行いました。ラジオ応じて、サンプル剥がしやビーズ通 ました。 香川のうどん店、カラオケ店等に行りくり鑑賞をし、班外出では博物館、 日課の中では利用者さんのニーズに生産活動に取り組みました。また、 た。ゆとりの時間には塗り絵やカー等、体を動かす時間も作りまし き、楽しい時間を過ごすことができ ーズ班では、軍手作業を中心に

もらえるよう、引き続き支援してい年度も健康で充実した生活を送ってみなさん元気に頑張っています。来場に来ることができるようになり、 きたいと思います。 今年度はどの利用者さんも毎日作業

体調を崩し入院した利用者の方も

## 牧野 隆久

### 上に作業場や外出等(バーベキュー、事もたくさんありましたが、それ以 ひまわりグループ 食べ放題等)で楽しいことも沢山見 年目が終わりました。支援等難しい ひまわり班として活動を始めて二 一年を振り返って 支援員 宮西 明恵



# ひまわりグループ

## みぞくちの一年を 振り返って

### 管理者 延原 良純

当たり前でありたいが、現実には何た一年だったと言える。神奈川県のた一年だったと言える。神奈川県のた一年だったと言える。神奈川県の中成二八年度は危機管理を重視し

も実践したい。 が起こるかわからない。 「備えあれば憂いなし」をこれから だからこそ

れでいきます。 九年度のキーワードは「工夫」。こ 日々の工夫にかかっている。平成二 るとは思っていない。月日が変われるとは思っていない。月日が変われな言え、皆さんに満足して頂いてい安心・充実できるよう工夫した。と だ。その一つは事業所内の環境整備意義な時間の提供を目標に取り組んまた、日常の活動においては、有 ば人の思いも変わる。 をいかに大切に捉え、前進できるか。 の一部と捉え、利用者お一人お一人が 影響は計り知れない だ。環境が利用者の皆さんに及ぼす また、日常の活動においては、 人も物も環境 その|瞬|瞬

### グル 一年を振り返って (ープホー

### 管理者 村 上 雅昭

少しずつですが、地域住民からの域行事に参加してきました。現在 解も得られるようになってきていま 生活の充実を図るべく、積極的に地 ています。昨年度は初心に返り地域ホーム十七名の利用者の方が生活し グループホー 設してからはや、十年がたちました。平成十八年にグループホームを開 ム井手では、現在六 現在、

てもらえるように積極的に活動を続域の住民が障がい者への理解を深め今後も地域活動を充実する事で地 けていきたいと思います。

## 一年を振り返ってポプリグループ \*\*

# 小野祐喜子

に、季節ごとの体験も大切にしていも個々の能力を大切にしていくと共充実した|年になりました。来年度います。|人|人の新しい発見もあり リウムへ行ったり、木工の工作や利います。今年度の外出は、プラネター年間健康で楽しく過ごせたと思 を行うなど色々な体験が出来たと思 用者さんの希望メニューの調理実習 きたいと思います。



# 昨年度を振り返って

### 管理栄養士 林 裕子

れぞれの方の食事の摂り方を知る事た一年でした。利用者の方が食事をかったですが、学びながら進んでき食事の対応の仕方など覚える事が多 の方の名前やそれぞれの方に対する 早|年が経ちました。最初は利田二〇|六年四月に新卒で入社 最初は利用者

(3) 第48号

喜んで頂ける食事作りをする大切さ接言って頂いた時はとても嬉しく、きました。また、美味しかったと直

出来る様に多職種と連携し、 者一人ひとりに合わせた食事提供が いと考えています。今後はより利用で、健康的な毎日を過ごして頂きた 方には食事をしっかりと食べる事誰しも行っている事です。利用者の いと思います。 からしっかりとサポー 「食べる」という行為は日々必ず トしていきた 食事面

## インフルエンザ 大爆発

看護師 浅沼 静子

混じっていたので長期化しました。 はないけれど発熱を伴う風邪の人が 腸炎で下痢の人、インフルエンザで た。ノロウィルスではないけれど胃フルエンザになった人が多数出まし昨年の冬は、ノロウィルス・イン

てしまいました。 喉が変だなと思っていた次の日、 感染する事なくやってきたので、「私 場にいながら情けない事です。 に熱が上がりあっけなく患者になっ は大丈夫」と過信してしまい インフル患者と接してきましたが、 ンザになってしまいました。 そんな中、最後に私がインフルエ 治す立

自己管理を含め、 今回の状況を見直し、 対策を考えていき

# 自治会活動一年を

### 支援員 小 野 祐喜子

販売し、園外の方々と交流する機会行事で、ジュースやソフトアイスを動を頑張りました。地域や他施設の が言われており、一年を通して充実楽しい自治会にしたいと、役員全員 た、売上を貯めてピザパーティーをを持ち楽しむことができました。ま ガンに、役員六名で一年間自治会活「笑顔で楽しい自治会」をスロー 行ったり、夕涼み会を行ったりと楽 した自治会活動が出来ました。 しい企画をしました。来年も笑顔で



# 《敬称略·順不同》 平成二十九年四月三十日 平成二十八年十二月1日~

### 《 寄 付》

河相正之 カネダ加工

# 寄付・寄贈・

### 鈴木雄進 小西|生 杉森忠和 横田一夫

## 《ボランティア》

塩見さくら 田辺高志

### 支援員補助 麦援員補助 青葉 医二十九年三月付 支援員補助平成二十九年二月付 平成二十九年一月付 支援員補助 助 坪倉 みな 吉岡 喜美子 畑

上げます。 数々の行事について、支援してくだ春の訪れを感じる頃になりました。 さった多くの皆様には心より感謝申し

に取り組んでいきたいと思いますの で、よろしくお願い致します。 本年度も職員皆気を引き締めて支援

# 新任・退職のおしらせ

## 《新任職員》

支援員平成二十九年二月|日付 山本 剛史

平成二十九年二月七日付 赤堀 未希

水福楠坂舟田見本 郁幸菜夏代恵月実

平成二十九年四月1日付

支援員補助 看護師

《退職職員》

麻希

三宅

登

• 7

•

編纂後記 · · ·